

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	森林整備課長 前島和弘	電話番号	0852-22-5173
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	森林病害虫等防除事業		
目的	(1) 対象	マツ林等（県民共有の財産）	
	(2) 意図	森林の中でも山地災害防止機能、防風・防砂機能、景観維持機能等について高い機能を有するマツ林等の保全を図るため、薬剤散布、被害木の伐倒処理、感染源となるマツ林等での樹種転換を行い、被害の蔓延を防ぐ。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村が市町村森林整備計画に基づき設定した守るべきマツ林の保全のために行う、薬剤散布等による予防、被害木伐倒による駆除等に対し支援する。 ・市町村が景観や防災上の必要性から行う、ナラ枯れ被害木の伐倒による駆除等に対し支援する。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	守るべきマツ林での被害木処理率（93%以上）	目標値	93.0	93.0	93.0	93.0	%
	式・定義	処理量／年間被害発生量（材積） （93%とは、松くい虫個体数を減少させる処理率として試験研究機関が示す数値）	取組目標値					
			実績値	72.8				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	58,140	48,934
うち一般財源 (千円)	20,338	17,126

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

防除対策として予防措置と駆除措置を実施した。予防措置は、健全な松を守ることを目的に、健全な松への薬剤の空中散布と樹幹注入を実施し、駆除措置は、翌年度の被害発生を抑制することを目的に、当年度被害木の薬剤処理による伐倒駆除と破砕による特別伐倒駆除を実施した。また、被害木の除去による森林の健全化を図った。
この結果、平成27年度の島根県全体での松くい虫被害量は約1万3千㎡であった。ナラ枯れ被害量は約3千6百本であった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

駆除目標93%には届かなかったが、継続的な防除対策の実施により、県全体の松くい虫被害量は対前年度27%と大幅に減少した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
守るべき松林での被害発生量に対して被害木処理量（処理率）が低迷している
- ②困っている状況が発生している「原因」
被害木処理等に要する予算枠が確保できない
- ③原因を解消するための「課題」
被害木処理等に要する予算枠の確保が課題
被害木のバイオマス燃料等への利用をはかるなど、被害木処理経費の軽減が課題

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

松くい虫被害等に対しては、重要な区域を絞り、市町村が森林病害虫等防除法に基づき実施する予防措置、駆除措置の防除対策を継続して支援する。また、被害地において、森林総合研究所や森林組合等が実施する植林（樹種転換）に対して積極的に協力または支援する。

9. 追加評価（任意記載）

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。